

9/9 ASCON“熱討”セミナー「科学者委員会の報告と意見交換会」アンケートまとめ

【開催】平成 28 年(2016 年)9月9日(金)13:30~16:30 食品衛生協会 5 階講堂にて

【参加】 74名

1. 学んだこと、感想

○様々な目線で機能性表示の今後に対する考え方を聞くことができ、大変有意義な会でした。ASCON の評価については我々も貴重な意見として今後の商品開発に役立てたいと思います。

○消費者の皆様に分かりやすくかつ胸を張って届出する資料の構成になるよう社内一丸となって取り組んでいきたいと思います。科学者委員会の評価についてですが、レベルの違いを想起させる「A~C」ではなく、例えば「1~3」等に変えることで、有効性の違いを表しているという印象を変えることはできないでしょうか。

○科学者委員会の方が評価にご苦労されていることが本当によく伝わってきました。それでも、単純に「A・B・C」の評価だけでは消費者の誤解を受けやすく、今後の改善が望まれると思います。

○〈唐木先生の講演〉機能性表示食品の制度や消費者庁食企課のやりとりが多々あった中、安全性・有効性の話が解りやすく刺激的であった。別途先生の講演を探して受講します。

○ASCON の評価は一読していましたが、あらためてご説明いただき分かりやすくありがとうございました。今後も全ての届出について評価されることに頭が下がる思いです。(一消費者としても)

○いわゆる健康食品から機能性表示食品に変えていくことに、どのようなことができるのか、ASCON で何ができるのかということを考えていただいていることにうれしく思いました。正しく評価していただき、消費者の信頼を得ることで、自然と方向が決まっていくと思いました。

○消費者、事業者、団体の各種立場からの意見が寄り沿わないとよい制度はできないと思います(感じました)。事業者の立場ではありますが、このような場を活用しながらそうあるべき、そうであってはならないことは主張してゆくべきと思います。

○科学者委員会のお考えが理解できました。

○大変参考になりました。

○ディスカッションの時間が長くとられ活発な討論がなされており、勉強になりました。大変良い場と思います。

○SR の評価に多大なご苦労があることが伝わりましたが、評価の伝え方にもう少し工夫していただくとよいと思います。消費者に誤解を与えては良くないと思いました。

○自分にとって良いものを見極めるのは本当に難しいと思います。せっかくスタートしたこの制度、消費者にとって有効なものにするのは大仕事ですが……。できてしまった制度ですから良いものにしていきたいですね。「科学者委員会」のみなさま本当にご苦労さまです。今日は色々な立場の方のお話が聞けて良かったです。

○ASCON 科学者委員会評価の課題についてキリンの田嶋様の提案と意見交換があったのは良かったが、ここからもう一歩「どうしていくべきか、どうすれば良いか」まで踏み込みが欲しかった。

○企業、有識者、消費者の意見交換が活発でおもしろかったです。機能性食品を販売する企業として襟を正す内容でした。

○ASCON 科学者委員会の数名での評価を今後続けていくのは難しいと思う。もっと体制を確立させていく必要があると考える。

○機能性表示食品制度について最近の内容を勉強することができました。また ASCON 科学者委員会の評価を舞台に評価側と企業側で発表があり、正当に対話がなされていると思いました。この制度では企業が行政を向いている気がします。もっと消費者を向いて情報を発信すべきと感じました。

○唐木先生の安全性に関するご説明は食品に対する安全性の考え方を理解する上で大変勉強になりました。

○今回のセミナーに出席した理由は、貴会の評価活動について報道等では知っていましたが、実際、弊社にアンケート依頼が来た時にその活動の詳細について知らなかったために対応に困ったためです。パネルディスカッションでも議題になっていましたが、消費者への公表方法や消費者の認知(評価方法の理解)が企業側も十分納得された上であればスムーズに回答できたと思います。会社の中で「これは何？」ということの説明しなければいけない状況ですので、これは課題と感じます。活動に対しては意義あるものと感じていますので、双方の理解が深められればと思います。

○各事業者のコメントも聞いて良かったです。A1～A80 の評価結果、今後の基準を知ることができて、今後の参考にしていきたいと思います。

○メーカーさんと ASCON との考え方にちょっとギャップがあるように思えた。個人的には、消費者が実はカヤの外になっているような気がしてならない。私も市民の方への講演の際に質問するが、本制度の内容について知っている人はほとんどいない。

○事業者様の生の声と苦労話は大変貴重で参考になりました。大手企業が行っていることで自社でもマネできることがあればマネして質の向上をして届けたいと思いました。

○機能性食品も長く飲み続ければ毒であるということの再認識になりました。

○届出・受理しておしまいではなく、その後も大切なことがわかったので、その後のことも踏まえより慎重に精査し、責任を持ち続けることが大切だとわかりました。

○唐木先生の「喫食実績で毒性を確認するのは長期間かかることで、機能性表示食品にも毒性があり得る」という言葉を聞いて、あらためて食品企業の開発担当として覚悟を持って取り組まなければならないと思いました。ただ、安全性評価を個々の企業で行うのは一部の大企業以外には難しく、専門家との連携がとれる仕組みが必要だと感じました。

○唐木先生のコメントは的確である。私が一番不安に思っていた点である。「機能性表示食品」に毒性があり得るというコメントはよく考える必要があると思う。

○業者側はやはり売らんかな主義が感じられる。そして健康被害が生じた時に公的に発表するのか。隠してしまうのでは？

○「機能性関与」成分の強さ、弱さの証明は難しい。本質的にこの成分の機能性を論ずるのは無理がある。現実的に本当に有効性の有無は期待できない。

○事業者と科学者委員会等の双方の意見が聞けたのは良かった。

2. 今後のセミナーやテーマについての要望・意見

○まず A170 までのまとめの話題。⇒対象品目を今後は絞っても良いかと思います。ex. 発売後 1 年を経ても上市しているもの等(A170 の評価のまとめより時間がかかるかかと思ひます)。

○ASCON の評価基準の事後・自己評価。

○機能性表示食品のテーマはまた行われるとのこと、楽しみにしています。

○同じ機能性成分でも含量(1 日摂取目安量あたり)が大きく異なります。同一社でも量の異なるものが出ています。このあたりは少し踏み込めるといいかと思ひます。(DHA など)

○評価のためのチェックリストは消費者庁の DB からデータを機械的に抽出する方法などを検討されてはいいかがでしょうか。例えば安全性の根拠は？と問われた場合に、チェックリストとして提出するのは不可能だと思ひます。

○広告についてのセミナー、優良誤認をどう防ぐか？

○引き続きこのような企画をお願いします。科学者委員会にご苦労さまですが、今のしくみ○○(?)はとりあえず見直してはいいかがでしょうか？

○企業と消費者のつなぎ役として開かれた活動であることを期待しています。

○改めて消費者への情報提供のありかた～科学の話を一一般の消費者に伝える方法

○本日の機能性表示食品の情報をいかに一般消費者が理解できるようになるのか⇐どのような連携ができるのか。

○同様の意見交換会(委員会⇔企業⇔有識者⇔消費者)はもっとあって良いと思ひます。

○このような活動が広がるとよいと思ひます。ありがとうございました。

○テーマ案⇒「消費者の知る権利とは」

大変抽象的なテーマですが、消費者庁等の表示関係の検討会において、消費者が求めているからという理由で様々な要望が出されます。食品表示基準策定の検討過程においても次々と義務表示が増え、ある消費者の望みはかなえられても、一方では、表示の文字が小さくなりすぎて不便になったとの声もあります。今後さらに原料原産地表示の義務化も施行される可能性もありますし、消費者の知る権利を全て受け入れることは果たして消費者のためになっているのか疑問です。このようなことを考える機会として上記のテーマを検討されてはいいかがでしょうか。

○事業者、一般の消費者、消費者庁の三者が集まりディスカッションする場があってもいいのではないのでしょうか。ハンドリングが難しいかもしれませんが本質的、かつ面白い内容と思ひます。評価、大変だと思ひますが頑張ってください。

○ぜひ消費者に向けた情報提供・発信をしてほしいと思ひます。本当に消費者一人ひとりまで届くようにしてほしい。消費者にどのように正しい情報を伝えられるか、その取り組み(企業サイド)について事例等を紹介いただければうれしい。

○報告でなく相談するところがほしいといったまさに中小企業の生の声を、またその他今回挙がった意見などを消費者庁に上げていただきたいと思ひました。今日は大変良い会を開催していただきありがとうございました。今日学んだことを生かしてよりよい物作りをしていきたいと思ひました。

○現代社会に誤解されている“科学”にせものがまかり通っている。例えば「水素水」の力！の商業チャル！この情報の広がるしくみ等、マスメディアの取り上げ方。